

養殖アユのブランド化に向けた研究

中山仁志（内水面試験地）

1 目的

梅酢を添加した配合飼料のアユへの投与効果を確認する。

2 方法

供試魚として山口県産人工アユ種苗を用い、屋外コンクリート池(2×5×0.3m, 水量約 3m³)で4月25日～6月28日まで飼育を行った。開始時の平均体重は4.5gで、池1面当たり200尾収容し、各試験区2面ずつ設定した。梅酢添加区は、梅酢(紀州ほそ川製梅酢 BX70, 以下「梅酢」と略す)を市販のアユ用飼料に添加した飼料を用いた。梅酢の添加量は、飼料重量の0.1%重量とした。対照区は、市販のアユ用飼料を用いた。両試験区とも自動給餌機を用い、給餌率表に従って制限給餌により飼料を与えた。

給餌期間中、定期的に従試魚の総重量を測定した。

3 結果および考察

飼育試験期間中の平均体重の推移を図1に示す。梅酢添加区の方が対照区よりも、やや成長が悪かった。飼料効率は対照区で79.0%,梅酢添加区で72.5%となり、梅酢添加区の方が対照区よりも悪かった。梅酢添加によって、成長に良好な効果が得られた昨年度の試験¹⁾とは逆の結果となった。梅酢を添加することで、藤井ら²⁾が報告しているほど顕著ではなかったが、梅酢にはアユの成長を阻害する作用があると考えられる。

文 献

1) 中山仁志(2012) 養殖アユのブランド化事業. 平成24年度和歌山県水産試験場事業報告.

2) 藤井久之・加藤邦彰(2006) 脱塩梅酢(BX70)添加餌料による高品質アユの生産試験. 平成16年度和歌山農技セ水産試験場内水面研究所事報.

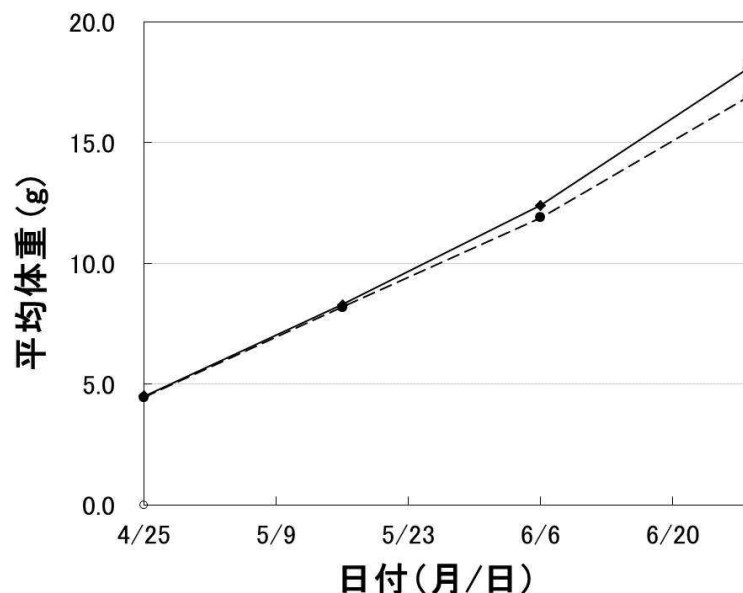


図1 アユの平均体重の推移

◆:対照区, ●: 梅酢添加区